学校番号	413

平成 31 年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校　数学Ａ　（数研出版）						
副教材等	クリアー数学Ⅰ・A（数研出版）、チャート式　解法と演習数学Ⅰ＋A（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・中学校までの内容を理解している前提で授業が進みます。よく復習しておいてください。
・授業中に扱う課題は、まずは１人でよく考えましょう。その後、自分の考えたことを周囲の人に説明することで理解の定着がよくなります。
・他人の考え方や問題解決の手段を学ぶ姿勢も大切にしてください。
・ノートは答えだけを書くのではなく、途中式や考え方のポイント等を必ず書くようにしましょう。解いた後は必ず答え合わせをし、自分がつまずいたところの確認を行うようにしましょう。
・中学校よりも難易度が高いです。授業でわからないことがあれば、放置せずすぐに解決するよう心がけてください。

2　学習の到達目標

・「場合の数・確率」、「図形の性質」、「整数の性質」の３分野の基礎的な知識や技能を身に着ける
・公式や解き方を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」をよく考える姿勢を身に着ける。
・数学Ａの内容が実社会どのような場面で活用されているのかを理解する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質の考え方に**関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察**に活用しようとする。	**事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して**、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質における**数学的な見方や考え方を身に付けている。**	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質において、**事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている**	場合の数と確率、整数の性質、図形の性質における**基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。**
評価方法	プリント課題 ノート確認 観察等	定期考査 プリント課題 ノート提出 観察等	小テスト プリント課題 ノート提出 定期考査 観察等	小テスト プリント課題 ノート提出 定期考査 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期 中間	場合の数と確率	集合の要素の個数			○	○	a:場合の数の考え方を事象の考察に活用しようとしている b:特殊な条件下にある順列の考えかについて考察できる。 c:単純事象においての順列や組み合わせの計算ができる。 d:集合、順列、組合せの意味を理解している。	小テスト プリント課題 ノート提出 定期考査 観察等
		場合の数	○			○		
		順列			○	○		
		円順列・重複順列		○				
		組合せ			○	○		
1学期末		事象と確率	○			○	a: 確率の考え方を事象の考察に活用しようとしている。 b: 複雑な条件下においての確率を考察し、表現できる。 c:単純な場合においての確率を求めることができる。 d:確率の定義を理解している。	小テスト プリント課題 ノート提出 定期考査 観察等
		確率の基本性質		○	○			
		独立な試行の確率		○	○			
		反復試行の確率		○	○			
		条件つき確率		○	○			
2学期中間	図形の性質	三角形の辺の比		○	○		a: 図形の性質に関心を持ち、それらを図形の考察に活用しようとしている。 b:図形の性質について考察することができる。 c: 公式をつかい図形を処理する技能を身につけている。 d:図形の性質について基礎的な知識を身につけている。	小テスト プリント課題 ノート提出 定期考査 観察等
		三角形の外心・内心・重心			○	○		
		チェバの定理・ メネラウスの定理		○				
		円に内接する四角形			○	○		
		円と直線・方べきの定理			○	○		
		2つの円の位置関係	○		○	○		
2学期期末		作図		○	○	○		小テスト プリント課題 ノート提出 定期考査 観察等
		直線と平面・多面体			○	○		
	整数の性質	約数と倍数	○	○		○	a: 整数の性質の考え方を事象の考察に活用しようとしている b:整数の性質について考察することができる。 c: 式を用いて事象を適切に表現し、処理することができる。 d:約数や倍数の求め方、また複雑な事象に関してユークリッドの互助法や２元１次方程式の活用を理解している。	
		最大公約数と最小公倍数			○	○		
		整数の割り算と商および余り		○	○			
3学期		ユークリッドの互助法	○		○	○		小テスト プリント課題 ノート提出 定期考査 観察等
		1次不定方程式			○	○		
		分数と小数			○	○		
		n進法	○			○		

※　表中の観点について　a:数学的な見方や考え方　　b:思考・判断・表現
c:数学的な技能　　d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。